



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

93. 4. 1 No. 3769

体制8000人貨物に見せる実像

JR貨物93年度経営計画

事業計画を提案(3月23日)

三月二三日、JR貨物会社は、九三年度経営計画と事業計画を提案してきた。その双方の底流に流れるものは、「分割・民営化」の矛盾を労働者に転嫁する、「貨物八〇〇〇人体制」合理化の推進であり、首切り一指向攻撃の本格的導入である。その姿を現した「八〇〇〇人体制」と拡大する会社間格差攻撃を粉砕する。壮大な闘いを対置しなければならぬ。

「経営計画」は、(1)総論、(2)輸送の安全の確保、(3)経営基盤の整備、(4)サービスの改善、(5)人材の育成と活用、(6)良好な企業イメージの醸成、(7)経営管理手法の充実、(8)関連事業の充実、の八章構成となっている。

ここでは紙面の都合上、各章の問題点を抽出し、その全体像が浮かび上がるよう提起していきたいと考える。

**列挙される
効率化スピードアップ
出向推進**

(1)総論では、企業理念である「価値を運ぶネットワーク」をスローガンとし、「全社あげて増収活動、効率化施策の推進、業務執行体制の抜本的見直し」を進めるとしている。とりわけこの章で問題視しなければならないのは、「発想を変えて、仕事の仕組み、やり方を工夫」し、

効率化を図るとする考え方で、「出向制度の積極的活用」をうたっていることである。(2)輸送の安全の確保の章は、「安全・安定輸送サービスの提供」を強調しながら、最も基本的な貨物指令の問題について一言も触れられていないことに、今日の問題が浮き彫りにされている。(3)経営基盤の整備では、「環境に優しい輸送システム」に努めるとしつつ、そのために「業務の繁閑にあわせた要員配置」「多能化推進」「非採算線区・列車の見直し」「総合鉄道部制の拡大」等を列挙し、均整のとれた要員構成のために、「選択退職制」を導入している。

さらには、「業務研究・提案・小集団活動の成果の水平展開」を図り、業務の効率化を推進する。「効率化と労使関係の安定と強調」が、経営基盤の整備に繋がるとするところに最大の問題がある。(4)サービスの改善では、「高度化・多様化するニーズに対応した物流サービスの提供」のための諸施策が並べられ、新型機関車(四〇〇〇KW級電気機関車)・貨車の開発があげられている。「モーターシフト施策」の一環としての、長大貨車編成・スピードアップが安全の危機をもたらすものであることは言を待たない。

(5)章の、人材の育成と活用では、「企業は人なり」としながら、「小集団活動等の活性化」をあげ、「効果的な出向対策」を推進するとしている。現場にお

る収支管理手法の検討をあげた(6)章に続き、(7)関連事業の充実の章では、その体制強化のため、「社員の出向を積極的に推進」することが述べられている。

**「分割・民営化」
矛盾転嫁
93新賃金超低額回答
格差糾弾!**

以上のように、貨物九三年度経営計画と、その具体策を上げた事業計画は、「分割・民営化」の矛盾を、労働者への転嫁によってのりきろうとする、「貨物八〇〇〇人体制」合理化の実像を顕すものに他ならない。モーターシフトへの具体的取組みも、「七分制体制」の下には効果的実効の伴わないものとなることは必定である。

「人間味あふれる企業」「つねに夢を持つ」と企業理念の項で挙げつつ、一方で、昨年末手当に続き九三新賃金において、実質賃金にも満たない三・九六%の超低額回答をした貨物会社、これで「夢を持つ」とは言語道断である。

貨物乗務員養成機関改置計画(並木夏頃予定) 発光衣!

この間、動労千葉が要求していた、貨物独自の乗務員養成機関の設置について、九三年度事業計画の中で、来年夏頃までの建設完成(大井機関区脇)へ向けて着工されることとなった。さらに要求の貫徹に向け闘いを強化しよう!